

生 化 学 (1)

教 授 平 賀 紘 一
助 教 授 古 谷 田 裕 久
助 手(前) 磯 部 啓 子
助 手 森ヶ崎 進

◆ 原 著

- 1) Shinbo M., Niiya K., Almokdad M., Hayakawa Y., Hiraga K., Fujimaki M., and Sakuragawa N.: Protein kinase activity-dependent inhibition of urokinase-type plasminogen activator by cyclic AMP in human pre-B lymphoma cell line RC-K8. *Biochim. Biophys. Acta*, 1268 : 293-299, 1995.

◆ 学 会 報 告

- 1) Chuang D. T., Davie J. R., Wynn R. M., Chuang J. L., Koyata H., and Cox R. P.: Molecular basis of maple syrup urine disease and stable correction by retroviral gene transfer. *American Institute of Nutrition Annual Meeting*, 1994, 4, California. (前回未掲載)
- 2) 森ヶ崎進, 古谷田裕久, 平賀紘一: 四塩化炭素投与ラット肝におけるI型コラゲン $\alpha 1$ 鎖mRNAレベルの調節. 日本生化学会北陸支部第13回大会, 1995, 5, 富山.
- 3) 古谷田裕久, 森ヶ崎進, 李芳, シクダール・ダイパヤン, 平賀紘一: ラット肝Fat-storing cell画分より樹立された細胞株. 第68回日本生化学会大会, 1995, 9, 仙台.
- 4) 森ヶ崎進, 古谷田裕久, シクダール・ダイパヤン, 平賀紘一: 四塩化炭素投与ラット肝におけるmRNAの代謝回転. 第68回日本生化学会大会, 1995, 9, 仙台.

◆ そ の 他

- 1) 平賀紘一: 伊東細胞の機能を知るために. *医報とやま*, 1145, 22, 1995.

生 化 学 (2)

教 授 許 南 浩
教 授(前) 藤 岡 基 二
助 教 授 小 川 宏 文
助 手(前) 古 西 清 司
文 部 技 官 高 田 義 美

◆ 研 究 概 要

ほ乳類の形態形成・組織構築の分子機構を皮膚を主なモデルにして解析し、その知見・技術を癌をはじめとするヒト疾病の病態解明とその対策に役立てることを目指して研究活動を行っている。そのための方法として、最新の分子生物学的手法と高度な培養法、形態学的解析を一体化したシステムを作り上げるべく努めてきた。これまでに、マウス胎児皮膚の形態形成が可能な培養系、ヒト表皮ケラチノサイトの三次元培養法を確立し、アデノウィルスベクターを使って培養組織中にある細胞にほぼ100%の確率で遺伝子導入が可能であることを示した。

ヒト組織中のDNA損傷の検出による発がんの分子疫学的研究がもう一つの柱である。我々の開発したO-アルキル付加体の高感度定量法によって、喫煙による影響や体内の各組織間の差を検討している。

また、従来からのテーマであるほ乳動物のメチルトランスフェラーゼの構造と機能や、セリン脱水酵素遺伝子の発現を指標にした日内リズムの発信機構についての研究も継続して行っている。

◆ 著 書

- 1) 許 南浩: 「汚名に泣くがん遺伝子; がんに備えて考える」, 日本評論社, 東京, 1995.
- 2) 許 南浩: 「分子生物学研究のための培養細胞実験法」 黒木登志夫, 許 南浩, 千田和広編, 羊土社, 東京, 1995.

◆ 原 著

- 1) Fu Z., Takusagawa F., Konishi K., Takata Y., and Fujioka M.: Crystallization and preliminary X-ray diffraction studies of glycine methyltransferase from rat liver. *J. Struct. Biol.*, 113 : 247-249, 1994.
- 2) Ogawa H., Kawamata S., Gomi T., Ansai Y., and Karaki Y.: Laparotomy causes a transient induction of rat liver serine dehydratase mRNA. *Arch. Biochem. Biophys.*, 316 : 844-850, 1995.
- 3) Ogawa H., and Kawamata S.: Periportal